

## 令和5年度 法人事業総括

### 1:はじめに(全体総括)

人事の問題と実務の処理に追われた一年間でした。組織の課題は全て人に起因する事を改めて肝に銘じて、細心の注意を払って進まなければなりません。結果として、法人の将来を見据えた仕事への取り組み時間をロスしてしまいました。

8月からB型三事業所と法人の神戸市実地指導の準備に追われ、事後処理にも事務部門に大きな負担を掛けました。また同時に、六甲倶楽部オーナーから突然の大幅な家賃値上げの通告を受け、止むを得ず閉鎖を決意しました。結果、両事案とも理事長が走り回る事になりました。ただし六甲利用者は全員、法人内の他事業所で受け止める事ができ、今も笑顔で働いておられます。

そのような流れの中でも、減少傾向にあった利用者数が徐々に回復に向かいつつあるのは明るい兆しです。現場職員の弛まない支援の積み重ねが、当事者の方々の法人事業所の選択に繋がったものと感謝しています。

また法人設立登記日(2月3日)に、『この街で 想いをつないで これからも』をテーマにして利用者参加型の20周年記念式典を開催しました。また、シンポジウム「哲学カフェ」の中で、ブラッシュアップした理念を参加者の方々も交えて共有しました。そして3月12日には、京都府立大学准教授の横道誠氏をお迎えしての記念講演会、「他者と出会って、勇気づけられる」を一般開放して遠方からの参加者もありました。これからも地域へ向けた取り組みの中で、福祉活動の情報発信に努めていきます。

### 2:取り組み(個別総括)

#### 1. ブラッシュアップした理念を全員のものとする。

期首の利用者への説明会及びアンケート票の集約・確認作業を経て、20周年記念式典及び記念講演会での共有化に繋がりました。現在の「木の芽」らしい取り組みになったと自負しています。

#### 2. キャリアプラン作成作業を完了させます。

#### 3. 第二次中期計画の策定作業を開始します。

前述した通り、理事長が半年間以上、非生産的な事案の処理作業に拘束され議論をスタートすることができませんでした。来年度は、キャリアプランを中期計画の柱の一つとして検討・策定を進めて行きます。

#### 4. 外部研修参加申請を促進させていきます。

研修情報の発信に努め、補助制度初年度の参加申請数は16件に留まりましたが、今年度は32件に倍増しました。今後は、職員体制の厳しい事業所への体制配慮をして参加を促すことが必要になります。

5. 広報活動に取り組んでいきます。

ホームページの毎月更新、事業所毎の SNS の更新頻度のアップを進めてきました。  
また、地域へ向けての福祉企画等を「ささえる会」の協力で定期開催していきます。  
通信をフルカラーにバージョンアップしました。

### 3: おわりに(今後へ向けて)

第二次中期計画策定は、人材育成と事業再構築の二つを柱に進めて行きます。

法人化以降、小規模事業所が散在しており、職員間連携不足と非効率的な運営解消が課題として挙げられてきましたが解決されないままです。まずは、異なる事業間の利用者と職員の流動・互換性を促しながら、同時に事業数の見直しにも取り組んでいきます。建物も含んだ物理的な環境整備を視野に入れて議論していきます。

その前提は人です。法人に愛情を持ってくれている職員はたくさんいます。キャリアプラン作成の中で、OJT の在り方や内部・外部研修制度、客観的な評価基準、そして各自が求める「働く姿」にどう応えていけるかを検討します。そして、その基本は安定した管理職体制にあります。信頼して、安心して働ける場を創るのが管理者の最大の役割と自覚して、自らを点検し続けなければなりません。

以上